



2014年後半期締め稽古の休憩中
先輩と記念撮影

合気道は頼らない
パワーに頼らない
合気道は

合気道は、相手の力を利用してバランスを崩し、体をさばいて投げることが基本ですが、現在は体重別の試合が主流となり、パワーの占める割合が高くなりました。その点、合気道は、相手の力を利用するのはもちろん、関節をきめて合理的に相手に投げられることもあります。パワーに頼らない合気道は、頼らない合気道は

合気道は、相手の力を利用してバランスを崩し、体をさばいて投げることが基本ですが、現在は体重別の試合が主流となり、パワーの占める割合が高くなりました。その点、合気道は、相手の力を利用するのはもちろん、関節をきめて合理的に相手に投げられることもあります。パワーに頼らない合気道は、頼らない合気道は



2015年2月春合宿 三級昇級
(前列向かって左端)

後援会ウェブサイトのご案内

<http://www.hosei-koenkai.org/>

法政大学のウェブサイトを開いていただき、オレンジ色のインデックスの「保護者の方へ」をクリックしていただいてもアクセスできます。ぜひ一度ご覧になってください。



「携帯メール情報」の配信案内

法政大学後援会は、メールマガジンを発行しています。東京六大学野球、ラグビーや箱根駅伝などのスポーツ情報、講演会などイベント情報を提供しています。一人ひとりの力は小さくても、一致団結して盛り上げていきましょう。配信ご希望の方は、下記アドレスへ「メールマガジン配信希望」とお書きになり、登録されるメールアドレスをお送りください。 koenkai-reg@ml.hosei.ac.jp



人との出会い



法学部
古田倫子

親元を離れ東京し、はや4年が経ちました。実家で好き勝手にやっていた自分から、一人で東京に出てきて、右も左も分からないまま法政大学に入学しました。振り返って思うのは、人との出会いに感謝してもしきれないということです。

1年生の秋に「マネージャーをやってくれないか」と選手に声をかけられたことをきっかけに、第二体育会準硬式野球部に入部し、マネージャーとして活動してきました。

この部では、年に2回、東都大学野球連盟のリーグ戦に参加しています。そのリーグ内で2度も優勝するという、素晴らしい感動を与えてもらいました。マネージャーとしてこれ以上に幸せなことがあるのかと心からうれしく思い、選手に負けないほど感動の涙を流していました。

プライベートでもとても仲がよく、よくみんなが集まって遊び、実家を出て一人暮らしをしていた私にとって、とても温かく居心地のよい場所でした。2月に行った卒業旅行では、選手がいつも通り大声で笑い楽しんでいる姿を目にして、いつまでもこの姿を見ていたいと思えました。また、そのように彼らを大切に思

えることがうれしくて、とても幸せな気持ちになったのを覚えています。大学生という自由に使える時間の多くを、部活動に費やしてきたわけですが、本当に最後まで続けてきたわけですが、から思います。卒業後はそれぞれの道を歩んでいきますが、関係はいつまでも続くと確信しています。



準硬式野球部の仲間たちと
卒業旅行(八丈島にて)

夢に向かって



古田かおる

卒業、そして就職おめでとう。「英語の力を生かした仕事に就きたい」と法政大学に入学したのがつい昨日のようです。希望の企業への就職も決まり、夢へ一歩前進ですね。これは、社会の一員としての自覚と責任を常に意識し、初心を忘れず、人と人とのつながりを大切にしていきたいです。

そして、この4年間であなたがいろいろな方とのかかわりを通して学び取ったことを糧に、持ち前の明るさを忘れず、自信を持って進んでいってください。今のあなたならきっとできます。故郷ですつと見守っています。

私を成長させてくれた 大学生活



経済学部
堤萌香

この4年間の大学生活は私にとって、忘れられない時間となりました。佐賀県から上京し、一人暮らしの生活で家族のありがたみを改めて感じることができました。学生寮に入っていたので、ここで出会った友人や寮父母さんとは家族のようにかかわることができて、とても心強かったです。

法政大学での学校生活が始まり、初めてのことがばかりで分からないことも多

く、先生方をはじめ先輩方にさまざまなアドバイスをいただき、友人と一緒に講義や試験を頑張ってきました。またサークルでは上下関係だけではなく、仲間とともに練習を重ね頑張ることで、今までになかった自分の考えや友人・先輩・後輩を思う気持ちが生まれました。技術面だけではなく、精神面も強くしてくれた経験だと思っています。

東京ディズニーリゾートでのアルバイトの経験も、この4年間で心に残っていることの一つです。幼いころから憧れていた場所約2年間働き、つらいことや大変なこともありましたが、それ以上にすてきな笑顔になれて、心から楽しめる時間を過ごせました。ここで学んだことの



アルバイト先の東京
ディズニーリゾートで
(右から3番目)

全てを、忘れることはできません。学生生活のなかで、たくさんの人のかかわりや支えがあったからこそ、今の私があるのだと思っています。家族や友人、恩師の方々には感謝もしきれません。本当にありがとうございました。この思いを大切に、これから社会人として、さらに自分を成長させていけるよう努めたいと思います。

感謝



堤和義

卒業おめでとう！
長いようで短い4年間だったと思います。大学生活で得たさまざまな経験は、あなたの将来にきっと役立つことでしょう。多くの方々のご縁とご支援により得られたこと全てに「感謝」し、社会人になっても荒波に負けずに頑張ってください。

父と母も、あなたのおかげで法政大学後援会のご縁があり、多くの人との出会いや交流ができたことに「感謝」しています。
法政大学を卒業したことに誇りを持ち、「感謝」の気持ちを忘れずに着実な歩みを続けてください。これからも応援しています。

親からのメッセージ【合気道部】



中嶋美奈子(崇善/法学部)

柔道部に所属していた息子が、高校2年生の冬のことでした。体重も軽く小柄な息子は、一本背負いを追究し、日々熱心に技の研究をしていました。そんなある日、一本のインターネット動画に目が留まったそうです。それは、自分よりも小柄で、どう見ても強そうに見えない男性が、息一つ上げずに剛健な相手をバタバタと投げ飛ばしていく姿でした。「不世出の達人」と高く評価された武道家の塩田剛三氏です。これが合気道との出会いになりました。

息子にはうつつつけの武道だと思いましたが、

現在、息子が在籍している法政大学合気道部は、1957(昭和32)年発足の伝統ある部です。息子からは「他大学とは一線を画す厳しい稽古で知られ、一目置かれている」と聞いています。ご指導いただき関根章弘師範、吉川滋師範、高溝真理子師範、島田裕正師範代、新井真人監督はじめ、諸先輩方のおかげで充実した活動をさせていただいています。

合気道を始めたころの息子は、稽古の厳しさに弱音を口にすることもありませんでした。大丈夫かと心配もありませんでしたが、時間の経過とともに、入部当初に感じていた厳しさに慣れたようです。心にも余裕ができたころに、先輩から

「中嶋は受身(格闘技において身体的ダメージを軽減するための防御の姿勢)がしっかりしているから、安心して投げられる」と言葉をかけられたと、うれしそうに話してくれました。これを聞いた私は、柔道の経験が合気道をする上で息子の励みになっているから、大丈夫だと安心しました。



基本の形稽古・腰投げ
(市ヶ谷総合体育館の柔道場にて)

新年度からは3年生です。任される責任も大きくなると思いますが、法政大学合気道部の和と伝統を守り、より一層精進して、周りの方から信頼される人間になってほしいと思います。そして、合気道を通じて人間力を高め、社会に出ても、くじけない精神力を身に付けてほしいと願っています。